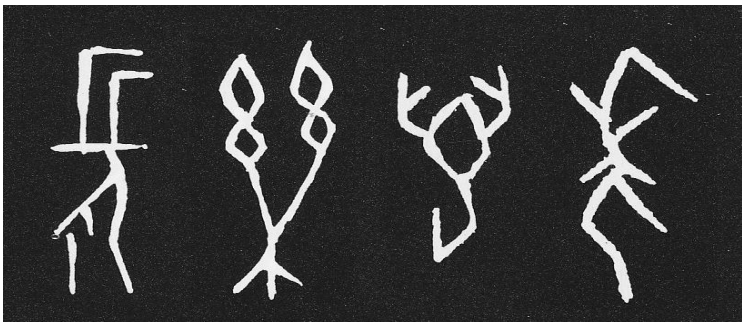

楽庵ニュース　第９号
2013年９月１日
発行元:NPO法人茅ヶ崎ユニバーサルデザインスクエア
地域活動支援センター　楽庵
茅ケ崎市浜竹3－4－64石黒ビル2F
TEL&FAX　0467－86－5898
ホームページ http://park11.wakwak.com/~rakuan
メールアドレス rakuan@ag.wakwak.com
＊長楽萬年（古代文字）:楽しいことの幾久しく限りないこと。

創る楽しみ

俺の山河は美しいか

和気あいあいで手芸教室、講師は関根好子さん＝５月16日　楽庵で

新しい10年が始まりました。畑ではみずみずしい野菜や草花が育っています。手芸の作品もたくさんできました。楽庵は創る楽しさで、明るい笑顔があふれています。

病気や障害で進路を変えざるを得ない苦しみや挫折、試練を経験している仲間ではありますが、お互いの語らいから宝のような勇気をもらっています。

人間だけが美しい音を聞きたい、美しいものを見たい、美しいものを作りたい、美しいものを手に入れたいという欲求を持っているとテレビで小椋佳が話していました。だからこそ生きることに貪欲になればよいと、美しいものを手に入れたい欲求こそが困難に打ち勝つのだと。

主体的に生きるために、親から受け継いだ生理的継承だけではなく文化的伝承を今こそスタッフとメンバーが一体となってつないでいきたいと考えています。

楽庵ニュース９号では日頃の活動報告とともに完成のない創る営みについてお伝えします。小椋佳の「山河」＊１にあるような美しさを希求する楽しさを体感できたらと思います。

＊１　「山河」小椋佳作詞

人は皆山河に生まれ抱かれ挑み
人は皆山河を信じ和み愛す
そこに生命をつなぎ生命を刻む
そして終には山河に還る
顧みて恥じることのない足跡を山に
残しただろうか
永遠の水面の光を増す夢を河に浮か
べただろうか
愛する人の瞳に愛する人の瞳に
俺の山河は美しいかと美しいかと
歳月は心に積まれ山と映り
歳月は心に流れ河を描く
そこに積まれる時と流れる時と
人は誰もが山河を宿す
ふと想う悔いひとつなく悦びの山を
築けただろうか
くしゃくしゃに嬉し泣きするかぎ
りない河を抱けただろうか
愛する人の瞳に愛する瞳に俺の山河
は美しいかと
顧みて恥じることのない足跡を山に
残しただろうか
永遠の水面の光を増す夢を河に浮か
べただろうか
愛する人の瞳に愛する人の瞳に
俺の山河は美しいかと美しいかと

副理事長に竹内嘉宏さん

前副理事長木村俊彦さんが４月４日逝去され空席であった副理事長に竹内嘉宏さんが就任されました。竹内さんは楽庵設立以来メンバーさんの生活に寄り添い温厚な人柄に定評ある方です。ネットワーク委員会の事務局の仕事もされ、地域の方との交流を活性化してこられました。これまでの理事には変更ありませんがより適時適切な運営に大きな力になると期待されます。

今後とも楽庵の運営に地域のお力添えよろしくお願いいたします。

ユニバーサルデザイン

「鯉のぼり」　近藤昭弘作品

楽庵の所長近藤昭弘が企業時代、国際標準化の仕事についていたころにＩＢＭの関根千佳さんと出会いました。彼女は自身も障害があり、誰でもが使えるデザインの建築や交通や衣服や日常物品の研究をしていました。現在ユーディット社長で同志社大学教授を務めています。彼女は著書で

ユニバーサルデザインというのは、健康な成人男子だけでなく、最初から女性や子供、高齢者や外国人、さまざまな障害やニーズを持つ人が使いやすいように、まちやものをデザインするという考え方だ。私は驚いた。そして、ものすごく嬉しくなった。そうだよ、なんだ、簡単なことじゃないか。最初から、「誰でも使えるように」考えて作ればいいんだ。後から機能を付加しようとするから時間もかかるし、高くなる。買えるユーザーは限られてしまう。出た頃にはもう時代遅れになっている。1年で7年分進むという「ドッグイヤー」のＩＴ社会にとってこの遅れは致命的だ。障害者が職場で孤立する危険性もあるし、高齢者が地域の話題に入れなくなるかもしれない。

と記しています。

近藤は何度もユニバーサルデザインの公開研究会に参加しました。ＮＰＯ法人を立ち上げたときに地域の方と名称を考え、「茅ヶ崎ユニバーサルデザインスクエア」としてユニバーサルデザインを発信できる地域活動支援センターを目指すことにしました。

「贈り物」　近藤昭弘作品

楽庵では現在、さまざまな活動をしています。片麻痺の方と手芸をしてさまざまな工夫が生まれました。菜園では車いすの方も栽培体験ができるように整備しています。ＩＴでは対面でのコミュニケーションが難しい方たちが盛んに文字や画像で表現しはじめました。

だれにもわかりやすくやさしい作業が経験則という知恵を生むといわれています。生活していく知恵と工夫をみんなで創生していきたいと考えています。楽庵に来た人がもっと元気にもっと幸せになっていくことを目指していきたいと思います

「花束」　近藤昭弘作品

楽庵の作業内容は陶芸、手芸、ＩＴ、園芸、コーチングと今までより種目が増えました。どの作業も楽しく誰でも参加できるように配慮しています。

紙面をご高覧いただき感想をお寄せください。メンバー、スタッフみんなで今後とも少しずつ精励努力していく所存です。

開催日
手芸　毎月第1木曜日
コーチング　毎月第2木曜日
いずれも13時より

コーチング

ライフコーチ、コミュニケーションントレーナーの伊藤恵子です。今年4月から月1回楽庵にコーチとして伺っています。「コーチ」という仕事は、スポーツ、ビジネス界以外では、まだ中々知られていないかもしれません。誰でも日々の生活で意識していなくても、大なり小なり目標に向かって生きています。その目標の達成をサポートする仕事です。まず自分の現在地を正しく認識して、そこから目標を明確にします。そして行動をするための，しくみ，を作って、やる気を維持しながら楽しく目標に向うお手伝いをします。対話を通じて一人では気づきにくいことに光を当てることで行動を加速します。

この5か月、スタッフの皆さまと安心安全の場を支えながら、利用者お一人お一人と関係創りをさせていただいています。まずは関わる方の笑顔の体験を0.1ポイントでも着実に増やしていけるように心がけています。どうぞよろしくお願いいたします。　伊藤恵子

伊藤恵子さん=８月８日　楽庵で

手芸　ＩＴ　陶芸　園芸

楽庵では就労支援事業も視野に入れて活動しています。脳血管障害や脳外傷の後遺症である高次脳機能障害では多くは記憶や注意や言語機能に課題を残します。就労の課題は作業を忍耐強く全うすることも大事ですが、組織のなかでどのように生きるのか対人面の学習も大切だと考えています。

ＩＴの進化によって便利になった社会では、コンビニを利用すれば人とかかわらなくて済むようになり、人とのつながりやきずなが薄くなってきました。組織の中で上下関係を学び親しい仲間の中で感情を育てていくそのコミュニテイがなくなりつつあります。

３月まで雑草だらけの地を田辺さんが地域の方の力を借りて見事な畑にしました。その畑の中で共に汗を流し小集団ではありますが種から育てた苗を植え、水をやり収穫する経験を通して人づきあいのノウハウを学んでいます。同じ年代の会話にはないさまざまな情報がそこに生まれ集団で一つの目的で働く意義を見い出せるように活動しています。

手芸や陶芸や園芸やＩＴは出発点で対人技術も取得するためのひとつの方法と考えています。就労支援という具体的な目的のための基礎的な学習がそこにあると考えています。情報社会の欠陥をどううめていくかを皆さんで話し合いながらすすめていきたいと思います。

楽庵ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ農園は収穫祭だ＝７月 26 日

ようこそ 楽庵へ

Soyez les bienvenus a Rakuan

De la france,Cinq (5) etudiants sont venus au Japon pour un sejour de deux(2)mois dont un (1) mois a Chigasaki et un (1) mois a Suwano.

Ce sejour notamment passe dans des familles japonnaises leur a donne l occasion de faire l experience de la vie quotidienne dans les foyers japonais. Deux (2) de ces cinq(5)etudiants a savoir Bin Dan et Jean Louis de Montfort ont eu l occasion de visiter Rakuan. Lors de l experimentation matinale du travail de ceramique,ces deux etudiants ont su se meler au groupe ordinaire des japonais pour des echanges culturels assez fructueux. Les objets que ces deux ont pu alisependant leur experimentation resemblaient bien a des oeuvres de professionnels. Dans l apres-midi,ils ont aussi eu l occasion d experimenter la ceremonie japonnaise du the aupres de la maman de Ms KONDO. Ils ont laisse entendre que, puisqu ils en etaient a leur premiere experience, ils se sentaient un peu tendus au debut, mais qu'apres tout, la ceremonie etait interessante et ils semblaient se rejouir de savourer le gout legerement amere du the japonais qu il ont beaucoup apprecie. Selon leurs temoignages, ces deux etaient tres heureux d avoir experimenter de pres la tradition japonnaise.

B. ダンさん（左）と J.L.ﾄﾞｩ･モンフォールさんの陶芸とお茶体験＝
７月 22 日

フランスから５人の学生が２カ月の予定で来日しました。日本では茅ヶ崎と津和野で１カ月ずつホームステイし日本の家庭生活を体験しました。５人のうちの２人が楽庵を訪問しました。午前中の陶芸体験では、楽庵に通所している方と楽しく交流しながらの焼き物作りになりました。

午後は近藤さんのお母さんのお点前による本格的なお茶の体験です。２人にとっては初めての体験なので少し緊張気味でしたが、苦味のある日本のお茶がとても美味しいと気に入った様子でした。日本の伝統文化に触れる良き一日になったようでした。　田辺

慶大生の陶芸体験実習＝８月１日

■このたび、楽庵で２日間実習をさせていただきました。
陶芸や畑仕事など、普段経験できない実習をさせて頂き、大変貴重な経験となりました。これらの経験を丁寧に教えていただき、職員の方や利用者の方々がとても親切だったことが印象的です。
利用者さんが口を揃えておっしゃっていたように、楽庵の特徴としては自由な気風が挙げられます。みなさんそれぞれ目的に向かってひとつずつ作業を一生懸命こなされているお姿はとても生き生きされていました。２日間という短い期間ではありましたが、勇気や、私も頑張ろうというエネルギーをいただきました。心優しい方々がいらっしゃる楽庵で楽しく実習ができ本当によかったと思います。

■楽庵で２日間実習をさせていただいて、非常に楽しかったです。利用者の方々と直接ふれあう機会を通して、自分のもっていた考えが変わりました。今回の経験を学習につなげていきたいと思います。
本当にありがとうございました。　　慶応看護医療学部生

この人
楽庵職員　田辺　和男　さん

社会人としてのスタート

私の社会人としての第一歩は、埼玉県の中学校でした。教師は、子どもたちに勉強を教えることが中心になるので、教材研究をして授業をするという毎日を送っていました。部活動やクラスの様々な活動も、教師がリーダーシップをとって教え導くことが多かったように思います。

6年後に、横浜国大で言語聴覚士関係の勉強をする機会が与えられました。私ははじめて言語障害、自閉症、難聴、吃音等様々な障害について学びました。1年間学んだ後、小学校の「言葉の教室」に配属になりました。言葉の教室では、大勢の子どもたちと接し、本を読み、いろいろな経験をさせてもらいました。そんな中から学んだことの一つは、世の中にはいろんな障害があり、同じ障害であっても、一人ひとり皆違う能力や個性があるということでした。思考方法も悩みも表現の仕方も同じ人は一人としていないということでした。だからこそ、一人ひとりのあるがままの姿を受け止め（受容）、そのひとの気持に寄り添う（共感）ことが大切なのだということを学びました。

陶芸の世界へ

今から25年前、子どもたちと一緒に縄文土器を作りたいという思いから焼き物の世界に入りました。焼き物は作れば作るほど奥が深く、グイグイと焼き物の世界に引き込まれていきました。壁にぶつかると、図書館に行っては焼き物の本を読んだり、焼き物の仲間と語り合っていました。

日本には各地にその土地特有の焼き物があります。様々な釉薬、粘土、技法があります。時間があるときは、日本各地の窯元を訪ねて、いろいろな作品を見て歩きました。作家さんと作品作りについて語り合ったり、作家さんの歩んできた人生を聞くのも楽しみの一つです。

このようなことの繰返しの中から、自分が求めている焼き物の世界が出来上がってきたように思います。

自分の居場所・楽庵

今年の4月から、楽庵にお世話になっています。楽庵は生活も世代も違う集団であり、体の状態も価値観も一人ひとり異なる人が集う場所です。でも、お互いに対等の立場で交流を図っています。そんな中で、お互いありのままの姿を受け入れ認め合っていこうとしている場所が楽庵です。

楽庵が利用者さんにも職員にとっても憩いの場となり、一人ひとりが持っている良きものを発見したり発揮できる場所となることを願っています。（陶芸作品と本は田辺さん）

編集後記

楽庵設立10年になり、地域のみなさまのご協力やご支援のもとでより具体的に設立の趣旨を生かした運営に力を入れはじめました。10年間の中で不要になった物品を整理しました。断捨離ということばがありますが、八木重吉の言葉にも目が留まりました。

「空のようにきれいになれる
ものなら
花のようにしずかになれる
ものなら
価なきものとして
これも捨てよう　あれも捨
てよう」

捨てる勇気は物を減らして自らの心に耳を澄ますために必要なことなのかもしれません。また新たな出会いをめざして謙虚に生活していきたいと思います。　近藤（ひ）